

南部町・八学大 国際人材育成

1期生レさん 介護福祉士に

ベトナム留学生 町内就職

南部町と八戸学院大学・同短期大学部の連携協定に基づく国際介護人材育成の第1号として、同町に滞在していたベトナム留学生レ・ティ・ゴック・ティエツさん（28）が2023年度末で同短大を卒業、国家資格の「介護福祉士」に合格し、アルバイトをしていた町内の特別養護老人ホーム「ハビネスながわ」に24年度から正職員として就職した。工藤直町長は「第1期生として素晴らしい形を作っていた。後に続く方々の励みになる」と喜んだ。

（珍田秀樹）



レさんは22年5月に来町し、同短大に通いながらアルバイトにも励んできた。同施設の境恵美子施設長は「明るくて、よく細かいことに気が付く。職場にすぐにお手配の入り、入所しているお年寄りの人気者。危険察知能力が素晴らしい、学んだ介護技術もすぐに実践している」と語る。同短大介護福祉学科の三浦文恵教授も「日本人でも難しい勉強と介護施設のアルバイトを両立し、ボランティアなど

工藤町長（左）と握手、新たな環境での活躍へ激励を受けるレさんと、八戸学院短大の三浦教授（中）、就職先施設の施設長（右から2人目）

にも積極的に参加してくれた。日本の国家資格を取ることは留学生にとって大変なこと」とねぎらった。

町は、最大12人が暮らせる住宅を準備。基本的な電化製品など生活面で支援した。町内を走るバスを無料にする交通系ICカード「ハチカ」を配付。一方、留学生がよく行く、外国食材がそろったスーパーへの交通手段など、バス路線以外の交通手段で課題もあり、大学関係者も支援した。レさんは安心して暮らせ、先生たちの助けもあった。無事に資格が取れて卒業できた」と話した。

産官学三者の枠組みによる留学生受け入れは、介護人材確保・育成に向けた「青森なんぶモデル」で、世界的な高齢化の課題解決手段として期待が高まる。現在、レさんの後輩としてタイから2人が町に滞在。レさんは町が用意した住宅からアパートに移り、4月から就職先で即戦力として活躍している。